

政策体系	政策No.	5	政策名	きょうどう(市民とつくる協働と連携のまちづくり)	施策幹事課	企画政策課			
	施策No.	4	施策名	市の魅力と価値を高める多角的施策の展開	施策幹事課長名	上小園 拓也			
施策関係課名		地域政策課、観光PR課、霧島ジオパーク推進課							
1 基本計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針									
<p>多様化・高度化する市民ニーズに対して効率的かつ効果的なサービスを提供するため、市民をはじめ産官学等が一体となった課題解決や、行政界を越えた地域間による広域連携を推進します。</p> <p>また、霧島ジオパークを構成する地域の持続可能な発展を目指し、ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動を推進するとともに、市民参加型の情報発信の強化など、市民と一体となったまちづくりと魅力の発信に取り組みます。</p>									
2 施策の成果把握									
① 成果指標（意図の達成度を表す指標）		◎ 目標達成(100%以上) △ 目標を未達成(100%未満)					目標達成の方向性		
		単位	区分	2018年度	2019年度	2020年度		2021年度	2022年度
A	環霧島会議、霧島ジオパーク推進連絡協議会、錦江湾奥会議等広域的な取組の認知度	%	成り行き値	57.0	57.0	57.0	57.0	57.0	更なる増加を目指します
			目標値	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0	
			実績値					64.2	
			達成率					104%	
			結果					◎	
B	霧島市が住みやすいと感じる市民の割合	%	成り行き値	77.1	77.1	77.1	77.1	77.1	更なる増加を目指します
			目標値	78.0	79.0	80.0	81.0	82.0	
			実績値					81	
			達成率					99%	
			結果					△	
C	霧島市に住み続けたいと感じる市民の割合	%	成り行き値	78.6	78.6	78.6	78.6	78.6	更なる増加を目指します
			目標値	79.0	80.0	81.0	82.0	83.0	
			実績値					82	
			達成率					99%	
			結果					△	
D	広域連携により取り組んだ事業数	件	成り行き値	6	6	6	6	6	更なる増加を目指します
			目標値	9	9	9	9	9	
			実績値	8	8	3	3		
			達成率	89%	89%	33%	33%		
			結果	△	△	△	△		
E	産学官連携により取り組んだ件数	件	成り行き値	6	6	6	6	6	更なる増加を目指します
			目標値	8	9	10	11	12	
			実績値	9	10	11	25		
			達成率	113%	111%	110%	227%		
			結果	◎	◎	◎	◎		
② 成果指標の測定方法（実際にどのように実績を把握するか）				③ 2022年度の目標値設定の考え方					
A 環霧島会議、霧島ジオパーク推進連絡協議会、錦江湾奥会議等広域的な取組の認知度 ※市民意識調査				A 2018(平成30)年度の目標値を58%と設定し、年1%ずつの増加を目指す。					
B 霧島市が住みやすいと感じる市民の割合 ※市民意識調査				B 2018(平成30)年度の目標値を78%と設定し、年1%ずつの増加を目指す。					
C 霧島市に住み続けたいと感じる市民の割合 ※市民意識調査				C 2018(平成30)年度の目標値を79%と設定し、年1%ずつの増加を目指す。					
D 広域連携により取り組んだ事業数 ※環霧島会議・錦江湾奥会議で取り組んだ予算を伴う事業数				D 2018(平成30)年度から2022(令和4)年度まで毎年度9件を目標値とする。					
E 産学官連携により取り組んだ件数 ※包括連携協定等により、企業等と連携して取り組んだ事業数の累計				E 2018(平成30)年度については、8件を目標値とし、年1件ずつの増加を目指す。					
				F					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画より)

情報通信手段の急速な発展・普及等に伴い、市民の生活圏や経済圏は、既存の行政区域を越えて広がっています。そのため、近隣市町をはじめとする基礎自治体同士の連携を推進することで、住民生活に必要な都市機能や生活機能について、行政区域を越えた地域全体として確保するとともに、各自治体の地域資源を活用し、ともに魅力ある地域づくりを進めていく必要があります。

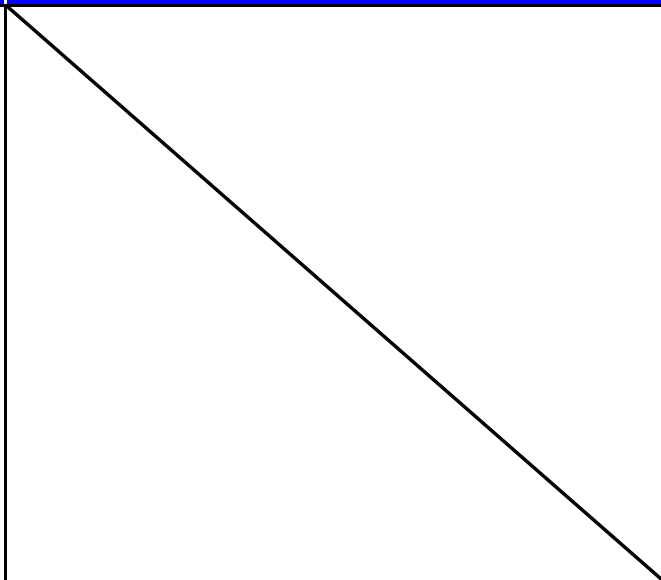
また、多様化・高度化する市民ニーズの的確に対応し、地域課題を解決していくためには、企業、教育機関などが、それぞれの特色や役割を生かした活動を展開するとともに、行政も含め、これらの多様な主体相互の連携が求められており、特に、霧島ジオパークについては、「ユネスコ世界ジオパーク」認定を目指す上で地域間や民間団体との連携による更なる広域的な活動に向け、課題の把握や問題解決のための取組を推進していく必要があります。

さらに、市の発展には、市民が積極的に市政に参画し、相互に連携して、広く情報発信することが必要不可欠であることから、まちづくり、観光、移住定住等の各施策と市のブランド力を高めるシティプロモーションとの連動を強化するとともに、その柱として取り組んでいる、「クリシマイスター認定制度」の更なる展開を図る必要があります。

4 施策の現状

①2021年度施策の取組方針	②2021年度の取組方針の達成状況
<p>■2021(令和3)年はエリア拡大のための準備期間の最終年度であることから、市民との協働による活動をさらに進め、サイトの保全活用計画や霧島ジオパークの基本計画策定など、霧島ジオパークエリア拡大申請に備える。また、国内外のジオパーク地域との協働プロジェクトを立ち上げ、ジオパークネットワークの一員としての存在感を示す。</p> <p>■環霧島会議や錦紅湾奥会議において、構成市町が抱える課題や広域的な問題等について、国・県等に対し要望活動を行うとともに、各地域の魅力を発信する事業等を実施する。</p> <p>■現在企業等と連携して行っている事業の更なる展開を模索するとともに、企業、教育機関等との意見交換などを通じ、課題の把握、問題解決のための取組を推進し、新たな連携事業についても取り組んでいく。</p> <p>■地域、学校、職場、団体等に積極的に働きかけ、クリシマイスター活動の啓発を行い、市民の郷土愛の醸成を深める事業を展開する。</p> <p>■PRに関する庁内横断的な取組を推進するシティセールスミーティングを実施し、情報共有・発信を行う。また、メディアPRを積極的に展開し、本市の魅力の拡散、交流人口の拡大による地域経済活性化を図る。</p>	<p>■エリア拡大の取組としてサイト一覧を作成し、各サイトの保全・活用状況等を示したサイトカルテを整備した。また、官民協働で「第2次霧島ジオパーク基本計画」を策定し、今後8年間の行動計画を示した。その他、九州ジオパーク連絡会として全国大会での展示を行うなど、ジオパークネットワークへの貢献に繋がった。</p> <p>■錦江湾奥地域の認知度の向上を図るため、福岡地区の旅行会社やメディアへの合同セールスを行うとともに、当該旅行会社等を招いた招致事業を実施した。環霧島地域の魅力発信を目的に、県内エージェント及びメディアを対象にしたモニターツアー(鹿児島県側と宮崎県側の2コース)を実施した。</p> <p>■環境省及び鹿児島県に対し、浄化槽の整備等に関する要望書を提出した。</p> <p>■4企業、1教育機関と新たに包括連携協定を締結した。</p> <p>■既存の協定先に加え、新たな協定先と連携して、様々な行政情報の周知や、各種講座、新型コロナウイルスワクチン集団接種の運営支援など、営業網や人材など企業等が持つ強みを活用した具体的な取組を推進した。</p> <p>■出前講座等を通して、クリシマイスターへの市民等の関心を高め、理解を深めることが出来た。また、クリシマイスターモデル校等において、各学校の特長を生かした郷土愛醸成の取組が展開された。</p> <p>■シティセールスミーティングを開催し、関係各部署と連携してPR素材の情報共有、及び一元化を行った。また、集約したPR素材を活用して首都圏、福岡市でシティセールスを実施し、本市の魅力を幅広く発信することができた。</p>

5 2022年度施策の取組方針

<p>■地域の持続可能な発展を目指すため、市民との協働によるジオパーク活動を更に進め、地域資源の保護保全をしながら、教育や観光への活用と防災への取り組みを行う。また、ジオパークの認知度向上に取り組んでいく。</p> <p>■環霧島会議や錦紅湾奥会議において、構成市町が抱える課題や広域的な問題等について、国・県等に対し要望活動を行うとともに、各地域の魅力を発信する事業等を実施する。</p> <p>■現在企業等と連携して行っている事業の更なる展開を模索するとともに、企業、教育機関等との意見交換などを通じ、課題の把握、問題解決のための取組を推進し、新たな連携事業についても取り組んでいく。</p> <p>■地域、学校、職場、団体等に積極的に働きかけ、クリシマイスター活動の啓発を行い、市民の郷土愛の醸成を深める事業を展開する。</p> <p>■シティセールスミーティングを実施し、PR情報の更新・共有を図るとともに、シティセールス等様々な機会を捉えて情報発信を行う。また、メディア等を活用したPRを展開し、本市の魅力の拡散、交流人口の拡大による地域経済活性化を図る。</p> <p>■令和4年3月に、湧水町が霧島ジオパーク推進連絡協議会に加入したことに伴い、同協議会と環霧島会議の構成市町が同一となった。今後、両会議が更なる連携を図り、地域活性化に資する取組を推進していくとともに、組織のあり方についても検討を進めていく。</p>	
---	--

政策体系	政策No.	5	基本事業名	ジオパーク活動の推進	基本事業 主担当課	霧島ジオパーク推 進課
	施策No.	4				
	基本事業No.	1				

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

出前講座やフォーラム、モニターツアーなどを開催し、ジオパークの認知度向上を図るとともに、ジオパークの目的である地域の持続可能な発展を目指し、関係機関や民間団体と連携しながら、地域資産の保全、教育や観光への活用、防災への取組みを推進します。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

■2018(平成30)年度において霧島ジオパークは日本ジオパークとして再認定されたが、その際に市民との協働や地域素材の発掘と整理、運営体制の強化などの課題が審査機関より示された。
 ■ユネスコ(国連教育科学文化機関)の正式プログラムであるジオパークは国際協力のプログラムとしての性格を持っているため、世界ジオパークの認定にあたっては、認定以前から国際的交流活動を推進することが厳密に審査されるようになった。

3 2021年度基本事業の取組方針

■プロジェクトチームの活動をさらに活性化させて、市民との協働をより一層進化・拡大させる。
 ■2021(令和3)年度は霧島ジオパークエリア拡大のための準備期間の最終年度にあたるため、サイトの保全活用計画や基本計画の策定を進め、次年度のエリア拡大申請に備える。
 ■国内外のジオパーク地域との共同プロジェクトを立ち上げ、ジオパークネットワークの一員としての存在感を示す。

4 2021年度の取組達成状況

■市民との協働により、各サイトの保全・活用状況等を示したサイトカルテを整備するとともに、ガイド養成講座を実施した。
 ■第2次霧島ジオパーク基本計画について、教育・防災・観光部門の関係者で構成する基本計画策定会議を立ち上げ、官民協働で基本計画を策定した。
 ■九州ジオパーク連絡会として全国大会での展示を行うなど、ジオパークネットワーク活動に貢献できた。また、全国大会等へ参加(オンライン)し、全国のジオパーク関係者との交流を図った。

5 2022年度基本事業の取組方針

■霧島ジオパークの基本計画及びサイトの保全計画に基づき、地域資源を適切かつ継続的に保護保全しながら、教育や観光への活用と防災への取組を進める。
 ■ジオパークネットワークの一員として、国内外のジオパーク地域と積極的な交流を進めながら、霧島ジオパークの特徴を生かして貢献する。
 ■霧島ジオパーク推進連絡協議会への湧水町加入に伴い、同協議会と環霧島会議の更なる連携を図るとともに、組織のあり方についても検討する。
 ■霧島ジオパークの魅力をさらに高めるため、これまでのJR3線(肥薩線、日豊本線、吉都線)に囲まれたエリア(領域)を構成市町の行政界域まで拡大する。

政策体系	政策No.	5	基本事業名	広域行政の推進	基本事業 主担当課	地域政策課
	施策No.	4				
	基本事業No.	2				

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

環霧島会議や錦江湾奥会議における活動を通じ、行政区域を越えた共通課題に対し、効率的に対処するとともに、地域全体の活性化を目指します。

また、高速道路や国道、主要地方道など幹線道路や、河川の整備、観光、福祉、教育など関係市町と連携して進めるべき事業については、協議会や期成同盟会等を設けるなど、協働して取り組むとともに、事業進展のため国や県に対して要望活動を行います。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

■環霧島会議は、2007(平成19)年11月に設立され、霧島山を中心に広がる鹿児島・宮崎両県の5市2町が、県境を越えた地域活性化を目指している。また、霧島ジオパーク推進連絡協議会は、2008(平成20)年10月に設立し、両県の5市1町の行政・民間団体が連携し、地質遺産の保護・活用により地域活性化を進めている。

■錦江湾奥会議は、2011(平成23)年8月に設立され、錦江湾奥部と桜島周辺に位置する4市が、行政区域を超えた地域活性化を目指している。

■国の第32次地方制度調査会においては、現在、人口減少に対応した市町村の圏域連携のあり方について検討がなされている。

3 2021年度基本事業の取組方針

■環霧島会議や錦江湾奥会議等の構成自治体の全首長が出席する総会や各専門部会での活動に積極的に参画することで、広域的な課題の解決や効果的な連携事業を推進する。

■関係市町と連携して進めるべき事業について協働して取り組むとともに、国や県に対して要望活動を行う。

4 2021年度の取組達成状況

■錦江湾奥地域の認知度向上を図るため、福岡地区の旅行会社やメディアへの合同セールスを行うとともに、当該旅行会社等を招いた招致事業を実施した。また、環霧島地域の魅力発信を目的に、県内エージェント及びメディアを対象にしたモニターツアー(鹿児島県側と宮崎県側の2コース)を実施した。

■環境省及び鹿児島県に対し、浄化槽の整備等に関する要望書を提出した。

5 2022年度基本事業の取組方針

■行政区域を超えた共通課題に対応するため、環霧島会議や錦江湾奥会議の構成市町と連携して、広域的な課題の解決や効果的な連携事業を推進する。

■霧島ジオパーク推進連絡協議会への湧水町加入に伴い、同協議会と環霧島会議の更なる連携を図るとともに、組織のあり方についても検討する。

政策体系	政策No.	5	基本事業名	産官学との連携の推進	基本事業 主担当課	企画政策課
	施策No.	4				
	基本事業No.	3				

1 基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

地元大学・高等専門学校やJAあいら、金融機関等と締結した連携協定を効果的に推進するため、組織体制の強化を通じ、積極的な意見・情報交換を行うとともに、継続的かつ具体的な事業を展開します。

また、世界的大企業や高い技術力をもつ先端企業が立地している等の本市の優位性を最大限に活用し、地域の多様な人材が活躍できる仕組みを構築します。

2 基本事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

■2020(令和2)年6月、大学等が考える産学官連携を進める上での課題への処方箋、新たに企業に対する意識改革のための処方箋として「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】」が取りまとめられた。

3 2021年度基本事業の取組方針

■これまで包括連携協定を締結し、それぞれ取り組んでいる事業について、更なる展開を模索する中で出てきた課題について、その解決を図る。
 ■連携して取り組んだ事業、これから取り組もうとする事業などを広く市民に周知し、市民とともに取り組んでいくための方策を引き続き検討する。
 ■行政サービスのみでは補完できない分野での連携に向け調査、研究を進める。

4 2021年度の取組達成状況

■市民の健康づくり等を目的に4企業(明治安田生命、大塚製薬、アクサ生命、日本生命)と、地域の医療・福祉の充実を目的に1教育機関(川崎学園)と新たに包括連携協定を締結した。
 ■新たに、防災アプリ、各種検診、ふるさと納税などの行政情報の周知や、健康講座、新型コロナウイルスワクチン集団接種の運営支援など、多数の具体的な取組を開始した。
 ■包括連携協定の締結を広報誌等で周知した。
 ■行政サービスのみでは補完できない分野での連携に向けて、各課が個別に締結している協定の状況を整理し、庁内で情報共有を図った。

5 2022年度基本事業の取組方針

■包括連携協定を締結している企業や教育機関等との意見交換を通じて、現在連携して取り組んでいる事業の更なる展開や、新たな連携事業に取り組んでいく。
 ■連携して取り組んだ事業、これから取り組もうとする事業などを広く市民に周知し、市民とともに取り組んでいくための方策を引き続き検討する。
 ■行政サービスのみでは補完できない分野での連携に向け調査、研究を進める。

政策体系	政策No.	5	基本事業名	シティプロモーションの推進	基本事業 主担当課	観光PR課
	施策No.	4				
	基本事業No.	4				

1 基本事業の目的、取組方針（総合計画より）

まちの持続的な発展や交流・移住人口の増加につなげるため、「褒め合うまち」をコンセプトとするキラシマイスター活動を更に推進し、市民のまちへの愛着度を高め、市民と行政がともに本市の魅力づくりを行うとともに、学校や企業・事業所等においてキラシマイスターを活用する場を広げることにより、キラシマイスター活動の更なる定着化を目指します。

また、本市の認知度向上を図るため、SNS等を活用した情報発信を市民とともにを行います。

2 基本事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか？

■本市のシティプロモーション活動の柱としている「褒め合うまちへ」をコンセプトとしたキラシマイスター活動については、霧島市教育行政の施策の中で「ほめる運動」についてキラシマイスターと連携した取組が掲げられ、学校現場やPTA活動などにおいて実践活動が進んでいる。

■本市の光ファイバ整備が令和3年度で終了し、市内全域で超高速ブロードバンドが利用できるようになった。

■通信環境やSNS等の発達により、個人での情報の受発信が容易にできるようになっている。

3 2021年度基本事業の取組方針

■キラシマイスター事業を継続し、市民の更なる郷土愛の醸成を図る。
 ■イベントやセミナー実施により、市民が自発的に市の魅力を発信できる機会を提供する。
 ■PRに関する庁内横断的な取組を推進するシティセールスミーティングを実施し、情報共有・発信を行う。
 ■メディアPRを積極的に展開し、各メディアへの情報提供や取材対応により、本市の魅力の拡散、交流人口の拡大による地域経済活性化を図る。

4 2021年度の取組達成状況

■幅広い市民層を対象とした「イイなの日」の取組に市民が参画し、キラシマイスター事業への関心を高めることができた。また、キラシマイスターモデル校を中心に各校の特長を生かした取組が行われた。
 ■市内の商業施設でキラシマイスター普及啓発イベントを実施したほか、出前講座等を通して、キラシマイスターへの市民等の関心を高め、理解を深めることが出来た。
 ■シティセールスミーティングを開催し、関係各部署と連携してPR素材の情報共有、及び一元化を行った。また、首都圏、福岡市でシティセールスを実施し、本市の魅力を幅広く発信することができた。
 ■メディア招聘事業を実施し、WEB等を活用して本市の魅力を発信、拡散することで、本市の認知度向上につながった。

5 2022年度基本事業の取組方針

■キラシマイスター事業を継続し、市民の郷土愛の醸成を図るとともに、市民が自発的に市の魅力を発信できる機会を提供する。
 ■シティセールスミーティングを実施し、PR情報の更新・共有を図るとともに、シティセールス等様々な機会を捉えて情報発信を行う。
 ■メディアPRを積極的に展開し、各メディアへの情報提供や取材対応により、本市の魅力の拡散、交流人口の拡大による地域経済活性化を図る。

第二次霧島市総合計画(前期基本計画)総括シート

政策体系	政策No.	5	政策名	きょうどう(市民とつくる協働と連携のまちづくり)	施策幹事課					
	施策No.	4	施策名	市の魅力と価値を高める多角的施策の展開	企画政策課					
計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針 (総合計画書から引用)					関係課					
多様化・高度化する市民ニーズに対して効率的かつ効果的なサービスを提供するため、市民をはじめ産官学等が一体となった課題解決や、行政界を越えた地域間による広域連携を推進します。 また、霧島ジオパークを構成する地域の持続可能な発展を目指し、ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた活動を推進するとともに、市民参加型の情報発信の強化など、市民と一体となったまちづくりと魅力の発信に取り組みます。					地域政策課、観光PR課、霧島ジオパーク推進課					
施策の方針に対する達成状況(2018～2021)					次期計画への課題					
<ul style="list-style-type: none"> 霧島ジオパークを構成する地域の持続可能な発展を目指すため、2022年3月に湧水町が協議会へ加入した。 世界ジオパーク認定に向け、桜島・錦江湾と霧島の両ジオパークの統合に向けた協議を継続的に行った。 環霧島会議や錦江湾奥会議の構成市町が抱える課題や広域的な問題等を国・県等へ要望し、各地域の魅力を発信する事業等を実施した。 企業や教育機関等との連携協定を推進し、行政情報の周知や各種講座の開催など、営業網や人材など企業等の強みを活用した具体的な取組を推進した。 「褒め合うまち」をコンセプトとしたキシマイスター活動を推進し、小中学校ではキシマイスターモデル校を中心に褒め合う活動が定着した。 					<ul style="list-style-type: none"> 世界ジオパーク認定に向け、桜島・錦江湾と霧島の両ジオパークを統合したエリアでの活動を進める必要がある。 環霧島会議や錦江湾奥会議の構成市町と連携して、広域的な課題の解決や効果的な連携事業を推進する必要がある。 包括連携により取り組んでいる事業の更なる展開を進める必要がある。 一般市民に対し、キシマイスター活動の更なる普及啓発・定着を図る必要がある。 霧島市の魅力を市民が認識し、SNS等を通じて自発的に情報発信していく活動を推進する必要がある。 					
成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上) △目標を未達成(100%未満)								
		単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	環霧島会議、霧島ジオパーク推進連絡協議会、錦江湾奥会議等広域的な取組の認知度	%	更なる増加を目指します	目標値	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0	104.0%
				実績値	-	-	-	-	64.2	◎
B	霧島市が住みやすいと感じる市民の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	78.0	79.0	80.0	81.0	82.0	99.0%
				実績値	-	-	-	-	80.9	△
C	霧島市に住み続けたいと感じる市民の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	79.0	80.0	81.0	82.0	83.0	99.0%
				実績値	-	-	-	-	82.2	△
D	広域連携により取り組んだ事業数	件	更なる増加を目指します	目標値	9	9	9	9	9	33.0%
				実績値	8	8	3	3	-	△
E	産官学連携により取り組んだ件数	件	更なる増加を目指します	目標値	8	9	10	11	12	227.0%
				実績値	9	10	11	25	-	◎
基本事業	4年間の取組内容			4年間の取組成果			次期計画への課題			
①ジオパーク活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度に2回目の日本ジオパーク再認定申請を行った。 霧島ジオパークのエリア拡大推進のため、民間とプロジェクトチームを結成した。 桜島・錦江湾ジオパークとのエリア統合に関する協議を継続的に実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> 2回目の日本ジオパーク再認定。 3つのプロジェクトチーム(10周年記念事業・エリア拡大・ガイド養成)の事業が実施できた。 両ジオパーク(桜島・錦江湾、霧島)が統合に向けエリア拡大を行うこととなった。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界ジオパーク認定に向け、桜島・錦江湾と霧島の両ジオパークを統合したエリアでの活動を進める必要がある。 日本ジオパークネットワークの一員として、国内外のジオパーク地域と積極的な交流を進めながら、霧島ジオパークの特徴を活かした貢献を行う必要がある。 			
②広域行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環霧島会議や錦江湾奥会議(以下、環霧・湾奥会議)の構成市町が抱える課題や広域的な問題等を国・県等へ要望し、各地域の魅力を発信する事業等を実施した。 湧水町へ霧島ジオパーク推進連絡協議会への加入について協議を行った。 			<ul style="list-style-type: none"> 環霧・湾奥会議で、霧島山の火山活動被害、浄化槽整備、県道103号線の道路整備等を要望し、一部で検討が始まるなど一定の成果があった。また、共同による誘客や観光PRなど広域的な観光素材の活用や魅力の発信が推進された。 2022年3月1日付で湧水町が霧島ジオパーク推進連絡協議会に加入した。 			<ul style="list-style-type: none"> 行政区域を超えた共通課題に対応するため、環霧島会議や錦江湾奥会議の構成市町と連携して、広域的な課題の解決や効果的な連携事業を推進する必要がある。 環霧島会議と霧島ジオパーク推進連絡協議会の統合について検討する必要がある。 			
③産官学との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 企業や教育機関等との連携協定を推進し、4年間で9件の包括連携協定を、26分野の個別協定を締結した。 包括連携協定に基づく具体的な取組は、2018年度の目標8件から25件に大幅に増加した。 			<ul style="list-style-type: none"> 様々な行政情報の周知や、各種講座、新型コロナウイルスワクチン集団接種の運営支援など、営業網や人材など企業等が持つ強みを活用した具体的な取組を推進することができた。 			<ul style="list-style-type: none"> 現在連携して取り組んでいる事業の更なる展開を進める必要がある。 民間の強みを行政サービスに生かせるような分野での新たな連携に向けて、調査、研究を進める必要がある。 			
④シティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 「褒め合うまち」をコンセプトとするキシマイスター活動を推進した。 本市の認知度向上、魅力発信を目的としたメディアセールスを展開した。 庁内の情報共有や連携を図るためシティセールスミーティングを設置した。 			<ul style="list-style-type: none"> 小中学校では、キシマイスターモデル校を中心に褒め合う活動が定着した。 取組がメディアや雑誌等で取り上げられ、本市の知名度向上、魅力発信に関しては一定の効果が得られた。 定期的な情報共有等が図られた。 			<ul style="list-style-type: none"> 一般市民に対し、キシマイスター活動の更なる普及啓発・定着を図る必要がある。 霧島市の魅力を市民がSNS等を通じて市民が情報発信していく活動を推進する必要がある。 シティセールスミーティングをはじめとした庁内での情報共有を図り、効果的なPRを推進する必要がある。 			